

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和3年度第6回 理事会議事録

令和3年6月28日（月）20:00～21:10

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、田中信弘、高相晶士、
筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、長谷川和宏、
波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

松山幸弘理事長が議長となり、開会を宣して議事に入った。

理事長挨拶

松山理事長が、例年休会していた8月・9月も理事会は継続したいと希望を述べ、
一同賛同した。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

松山理事長が、前回議事録について確認を求めた。追加で修正等ある場合は、渡辺
理事へ一報することになった。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（6月分）

6月の入退会について全員を承認した。

3. 専門医制度委員会：第12回専門医試験結果等について

6月の日本脊椎外科学会学術集会時に行った第12回脊椎脊髄外科専門医試験の結果につ
いて報告し、承認を求めた。

受験者人数：119名

合格者数：119名

不合格者数：0名

以上今まで同様の100点満点換算で80点以上を合格ラインとしている、と補足説明され
た。一同検討の結果承認した。

また、波呂理事から、専門医機構での脊椎脊髄外科専門医の認定状況について報告が

なされた。

4. ヒストリアン委員会：委員長および委員委嘱について

前回新設が決定され、担当理事として指名されたヒストリアン委員会について、執行役委員とメンバーを検討したとして以下を提示した。委員長は日整会のヒストリアン委員会担当理事でもあった永島評議員にお願いしたいと考えていると発言した。

委員長：永島英樹(鳥取大)

アドバイザー：根尾昌志(大阪医薬大)

委員

北海道：高畑雅彦（北大）

東北：相澤俊峰(東北大)

関東：國府田正雄（筑波大）

関東：大島 寧（東大）

北陸・中部・東海：明田浩司(三重大)

近畿：橋爪 洋（和歌山医大）

中国・四国：寒竹 司（山口労災病院）

九州：土屋邦喜(JCHO 九州病院)

一同検討の結果承認した。

5. その他

・国際委員会委員追加の件

Spine20に関わってもらっている大阪市立大学の玉井先生に委員に加わっていただきたいと、委員追加を提案した。一同審議の結果承認した。

2. 審議・決議事項

1. 倫理委員会報告

今年は合計9課題を審査し、8課題をすでに承認。残り1課題は、脊髄モニタリングWGの研究計画書の出し直しを残すのみであると報告した。

倫理委員会規程についても修正中で、現在委員の意見を集めているが、まとまり次第定款等検討委員会にて査収を依頼予定であると説明した。

2. 広報委員会報告

前回理事会以降に広報委員会で行ったホームページの更新業務について報告した。

長谷川理事が、英文ホームページのほうがアップデートされていないように思うと意見を述べ、古くなっている点を田中理事にメール連絡することになった。

3. 指導医制度委員会報告

7月1日から1か月間で指導医継続（更新）の受付を行う。昨年コロナ禍のため2020年度の対象者全員を1年間自動延長したことで、2021年度の対象者と合わせて約900名（過去最多）の更新作業が必要になると報告した。

4. データベース委員会報告

当学会のDB構築を担当するリーズンホワイ（以下RW）と6月18日付で契約し、構築を進められるようになったと報告した。

また、前回理事会で長谷川理事から質問があった、RW社に何か（倒産等）あった際のデータの取り扱いについて、その場合には全体を監督している日立が引き継いで作業を継続することとなっていると回答した。

長谷川理事が、当学会との契約書や覚書にもその旨明示してもらったほうが良いのではないかと提案し、筑田理事が検討することとなった。

5. 社会保険等システム検討委員会

サージフロー・フロシール査定状況のアンケート結果を説明した。査定された施設は東北と関東が多く、きちんと症状詳記を書いているにもかかわらず査定されたという例が多かったと報告した。上記につき質疑応答がいくつかなされた。最終的には論文化を予定していること、サージフローについては千葉大の牧委員がまとめているところであることを説明した。

6. 国際委員会報告

伊東理事が、以下4点を報告した。

・ APSS—APPOS2021 について

6月12日無事に閉会したとして、国別参加者のリストを提示した。日本からは405名が参加しており、2位の韓国とインドが37名ずつであった。オンデマンドのストリーミングを6月30日まで実施中。

・ Spine Across the Sea について

学会が来週に迫っているにもかかわらず、NASS から何も連絡がない状態であることが報告され、中村雅也委員長のほうから問い合わせをしてもらうことになった。

・ Spine 20 の進捗報告

Euro Spine Journal への publication (Corresponding author は大阪市立大学 玉井孝司先生) を提示し、同先生を国際委員会委員 (Spine20 担当) へ推薦したと報告した。JSSR を Leader Partner Society として迎えたいとの打診が Spine20 からあったことについて一同議論し、現段階で明確になっていない「Leader Partner Society としての役目や義務」を先方から明示してもらったうえで、再度議論することになった。

・ ASSI-JSSR オンラインシンポジウムについて

8 月 27 日夜に行われ、オンラインシンポジウムには JSSR 会員は無料で参加できるが、開催国との時差により夜遅くからの開催 (日本時刻では 21:00~24:00 くらい) であるため、できれば参加をお願いしたい。

7. 脊椎関連学会連携検討委員会報告

学会事務局からの NL で会員へ web アンケートの回答依頼をしたが、反応が芳しくないため、2 度ほど本件の依頼のみを記した一斉メール配信したいと希望を述べた。1 回にかかる事務費は 5,000 円 + 税である。一同承認した。

その他

・ (教育研修委員会) 脊髄モニタリング WG

松山理事長が、脊髄モニタリング WG から、例年夏に募集している全国のモニタリング・ハンズオン施設でのセミナーについては、コロナ禍のため昨年に続き中止することを決議したとの報告があったと発言した。一同了解した。

・ (新技術評価検証委員会) 椎体形成術 WG

松山理事長が、PMDA の谷城氏より椎体形成術について IVR 学会と連携し指針・審査ガイドライン等を作成してほしい旨の連絡をもらったと報告した。2 年ほど前に IVR 学会から同様の依頼があり、当学会としては、安全性の面等からお断りした経緯がある。ただし、今回は PMDA からの依頼でもあり、IVR 学会単独で当学会の方針と相いれない指針等を作成されても困る。まずは PMDA の話を聞き、再度 WG のほうで検討をしてもらって、その結果を次回の理事会で報告することで一同了解した。

以上

令和 3 年 6 月 28 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監 事 小澤浩司

監 事 小西宏昭